

現職教育

1 研究主題 「自ら学びをデザインし、課題を解決できる児童の育成を目指して」

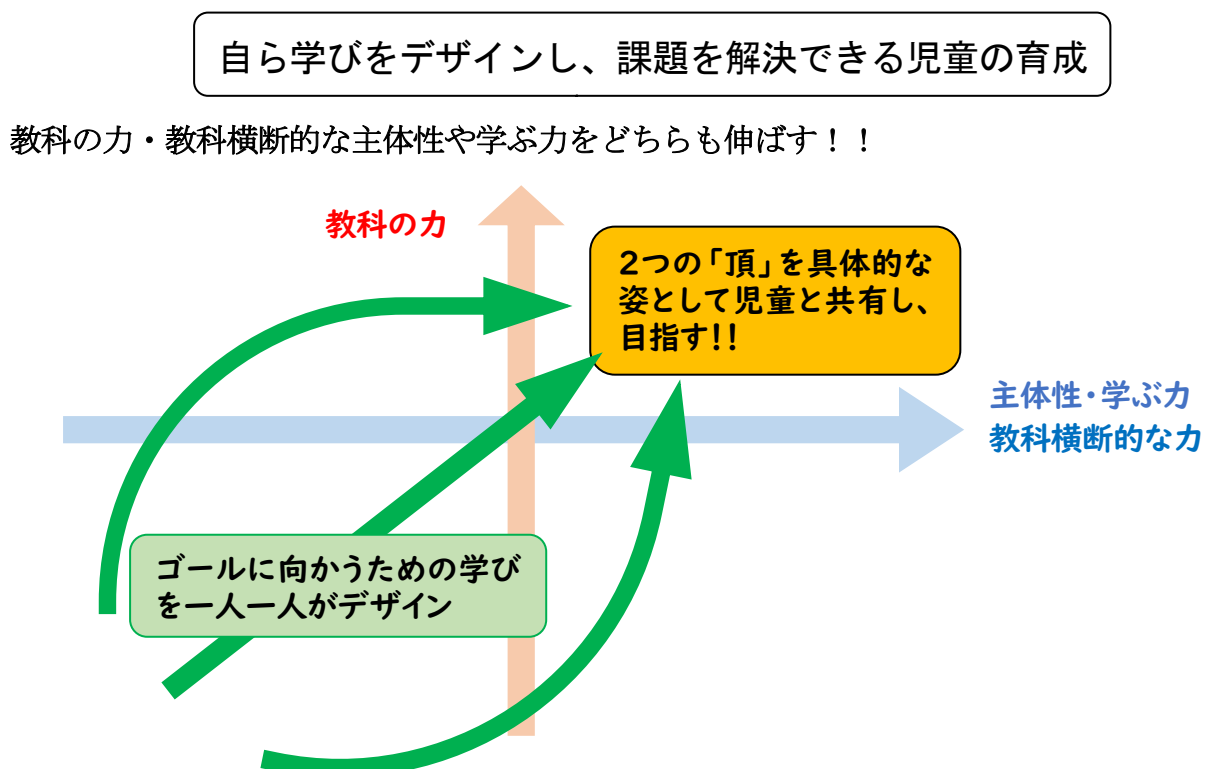
2 研究の具体

(1) 主題設定の理由

本校は昨年度、「進んで学び、自ら課題を解決できる児童の育成を目指して」を主題として研究を進めた。一人一人に合った個別最適な学びを保証するために、授業や単元の中で児童が自分の学習方法や学習内容を選択する場面や児童に学びを委ねる場面を設定し、児童主体の授業づくりを行った。授業の終末には、自らの学び方について振り返りをさせた。その取り組みの効果もあり、児童の学びに向かう主体性や自分達で学習を進めていこうとする意識の向上が見られた。児童アンケートの結果を見ても、「自分から進んで学んでいたか」という質問に対して肯定的な回答をした児童が年度当初と比較して大幅に増加した。しかし、授業の中でのねらい達成の割合が低く、教科の力の定着が十分ではない、自分の力をさらに伸ばそう、自分の考えをさらに深めようと自発的に動く姿が少ないという課題が見られた。その要因として、授業の中で目指すゴールの具体的な姿を児童と共有できていない、児童の自分の力や学び方などを客観的に認知させられていない、どんな学び方を目指していけばよいか具体的なイメージを持たせていないというのが挙げられた。

そこで今年度は単元や授業の中で、教科としてつきたい力、目指す具体的な姿を児童と共有することで、児童がねらい達成に向けて学びを自走できるようにする。また自分がどのような学び方を目指すか具体的な目標を一人一人持たせて、自己評価させることで、自分の学び方を客観的に認知できるようにする取り組みを行う。これらの取り組みによって、教科の力、教科横断的な力どちら伸ばし、「自ら学びをデザインし、課題を解決できる児童」の育成を目指し研究を進めることとする。

(2) 構想図



(3) 研究の視点

<授業づくり> 教科の力・教科横断的な力をどちらも伸ばす学び

具体策① 教科として目指す「頂」を児童と共有

授業や単元を通して目指す具体的な姿を児童と共有する。

そのゴールに向けて児童が自分達で学習を進めていける授業を目指す。

具体策② 児童ひとりひとりが目指す学び方を「自分の頂」として持たせる

年度当初に自分がどんな学び方をできるようになりたいか考え、具体的な姿で目標を決める。(教師も助言しながら一緒に考える)

毎月自己評価を行い、自分の学び方についてふり返る。

昨年度までの取組

個別最適 ここぞのとき

授業や単元の中で児童が自分の学習方法や学習内容を選択する場面・児童に学びを委ねる場面を設定する。

次につなげる ふりかえる

自分が選択した学習方法が、課題解決に向けて効果的であったかをふりかえる。

わかライト

記述に取り組む前に、何番のパーツを使うか確認する

算数 ①式や数 ②式や数の意味 ③算数のきまり

国語 ①主語と述語 ②叙述 ③条件 ④文末

社会 ①知っていること ②資料から分かったこと ③考えたこと

理科 ①用語 ②調べて分かったこと ③理科のきまり



わかポー



表現や解決の手がかりとなるキーワードを確認する

・落としてはいけない用語 (説明にできるだけ用いさせ、用語への意識を徹底)

・必要となる考え方 (精選し、端的な言葉にする) など

わかリーダー



学習リーダーの活用により、主体的な学びの場を作り上げる

リーダーは1か月交代

研究の検証 1学期は以下の方法にて行う。

実施検証

① 教師アンケート「授業の中で目指す具体的な姿を児童と共有した」月1回

② 教師アンケート「児童に自分の目標を設定させ、ふり返りをさせた」月1回

成果検証

③ 児童アンケート「自分で学び方を選択し、課題を解決するために進んで学べた」月1回

④ 児童自己評価・教師による評価「自分で決めた目指す学び方の目標を達成できた」月1回

⑤ 授業検証「ねらいを達成している」

<基盤づくり> ふりかえりの質の向上

ふりかり

授業の終末や単元末には、児童に自分の学び方についてふり返らせる。ノートや ICT 端末を活用し、自分のふり返りを残し、その変化を見返せるようにする。どんな内容を書けばよいか早見表や掲示物などで児童と共有する。